

Vol.28

令和4年7月6日



公益財団法人新潟県学校給食会は
「いじめ見逃しゼロ県民運動」を応援しています

豊かな心 健康なからだ
育てよう 学校給食で！

にいがた 学校給食 だより



contents

新潟県学校給食会 理事長のあいさつ	P2
新潟県教育委員会 教育長のあいさつ	P3
三条市の学校給食(新潟県の学校給食No.27)	P4
取扱商品のご案内	P5
新潟県学校給食会 令和4年度 事業計画概要	P6
新潟県学校給食会 令和4年度 役員体制のお知らせ	P7
新潟県学校給食会 令和4年度 事業計画(夏季事業)について	P7
新潟県学校給食会 令和4年度 理事会・定時評議員会	P7
食の豆知識Q&A	P8



〈編集・発行〉 公益財団法人 新潟県学校給食会

●〒950-1101 新潟市西区山田2310番地21 ●TEL.025-267-4126 ●FAX.025-267-4130
●URL <https://www.n-kenkyu.or.jp> ●E-mail soumuka@n-kenkyu.or.jp

ごあいさつ

公益財団法人 新潟県学校給食会 理事長 藤井 人志

皆様には、日頃より当会の事業にご理解をいただき、ご支援・ご協力いただき御礼申し上げます。「にいがた学校給食だより Vol.28」を発行いたしました。今回も新潟県の学校給食や食育に関する話題を掲載いたしました。ご活用ください。原稿や情報等をお寄せいただいた皆様には御礼申し上げます。本号では、新潟県教育委員会教育長 佐野哲郎 様にご寄稿いただきました。ご公務の大変お忙しい中、当会にとって励みとなるお言葉を頂戴いたしました。今後も大所高所からご指導を賜りたいと存じます。

当会の3月から6月開催の理事会、評議員会につきまして、新型コロナウイルス感染者数の高止まりを受け、役員の方々のご健康に配慮し、また、感染拡大防止の観点から「書面決議」による開催といたしました。令和4年度事業計画・収支予算、令和3年度事業報告・収支決算報告および役員の選任等をご承認いただきました。令和元年度、令和2年度の収支決算については、コロナ禍の影響を受け、厳しい状況が続き、役員の皆様をはじめ、関係の皆様には、大変ご心配をおかけしたところです。令和3年度につきましては、コロナ禍をはじめ、世の中の情勢の複合的な影響を受けたものの、安定的な収支決算となりました。関係の皆様のおかげを持ちまして適正な業務の執行ができたものと考えております。感謝申し上げます。当会の経営基盤の安定化を図り、子どもたちをはじめ、ご支持いただいている皆様方に還元してまいりたいと考えております。

さて、昨年度からこれまでを振り返りますと、新潟県では年明け以降、新型コロナウイルス感染症の急拡大を受け、1月には「まん延防止等重点措置」が初めて適用され、3月まで延長されました。それ以来、感染者数の高止まりが続きました。学校では、年度末、通常の教育活動もままならない中、食育計画のまとめの給食献立を休校等で実施できず、中学3年生や小学6年生においては、「最後の給食」を友達や学校職員の皆様と思い出を振り返りながら味わうこともできず卒業していったのではないでしょうか。さらに2月末にはロシアがウクライナに侵攻し、世界の情勢は混沌を深め、新しい学校生活を迎えた子どもたちは、「何気ない日々」が「いかに幸せか」を痛感したはずです。子どもたちをはじめ、学校関係者の皆様も不安な気持ちで過ごされていることと思います。この間、当会職員一同、子どもたちに寄り添い、給食で、一日一日、大切な日常を支えたいと努めてまいりました。

ここで貴重な機会ですので、昨年度の当会の取組を3つ程、紹介させていただきます。

1つ目は、コロナ禍での学校給食における食品ロスの解消についてです。県教育委員会 様、市町村教育委員会 様をはじめ、学校関係者の皆様と、当会の基本物資の製造を委託している加工業者や当会協力業者の皆様とは、食品ロスが起こらないよう、当会を通じ連絡を密に取り合っていただき、大幅に食品ロスを減らすことができました。ありがとうございました。今年度も継続し、ご協力ををお願いしているところです。

2つ目は、当会物資委員会の活動についてです。委員会の皆様のご協力を得て、昨年度、コロナ禍で活動が制限される中、参考集できたのは一度だけでしたが、食育推進計画における地場

産物の活用と食育を一体的に推進するという観点から鉄分、カルシウム、減塩をテーマにしたレシピを、市町村、県立学校の皆様からご提供いただき、「にいがた学校給食 レシピ集」としてまとめていただきました。限られた時間の中、各市町村の特色ある献立を掲載したすばらしいレシピ集ができあがりました。新潟県学校栄養士協議会の皆様をはじめ、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。ぜひとも日々の業務にお役立ていただきたいと思っております。

3つ目は、当会の「令和4年度学校給食用物資取扱商品案内」についてです。例年6月頃にお届けしておりましたが、お客様に一日でも早くご利用いただこうと、今年度は4月初めにお届けし、あわせて学校給食におけるデジタル化を見据え、紙面には、商品名、銘柄、参考価格、商品特徴のみを掲載し、これまで問い合わせに時間がかかっていた物資内訳書を、当会ホームページの学校給食専用ページからタブレット端末等で素早く確認できるようになりました。日々の業務にご活用いただき、ご用命を賜れば幸いと考えております。

以上、当会の3つの取組を紹介させていただきました。

新年度に入りまして、お客様からは、コロナ禍の長期化、世界の政情や経済の状況など、複合的な要因による物価高騰が学校給食に与える影響を、強く懸念される声をいただいております。当会といしましても、事業方針である給食用物資を適正な価格で「安全・安心」、「安定供給」を目指し、「できる限りの努力」を進めているところですが、この物価高騰の波に太刀打ちできないのが現状です。

そうした折、文部科学省からは、4月に令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の取扱の一部変更が通知され、給食費の補助に充てられるようになりました。コロナ禍において食材費等が高騰する中、地方公共団体の判断により、食材費の増額分を支援し、保護者負担を増やすことなく、学校給食の円滑な実施のために臨時交付金の活用が可能となりました。これにあわせて県や市町村の給食費への補助等の動きも出てまいりました。

子どもたちのために、国、県、市町村からの臨時交付金や補助金等の積極的な活用も、食材費高騰の一つの解決策となるのではないかと考えております。お客様と当会が情報を共有・交換すること、また、協同することで、このような現状でも学校給食の円滑な実施が可能になるものと考えております。

結びに、世の中はコロナ禍に加え、世界の政情や経済の不確定化により、ますます見通せない状況です。その厳しい状況の中、当会は公益財団法人としての使命を改めて強く感じながら、今後も「給食を止めるな」を合言葉に、新潟県の学校給食事業に支障がないよう全力で努めてまいります。

学校では、通常の教育活動がまだまだ難しい状況が続いています。当会職員は気持ちを一つにし、給食で子どもたちや学校関係者の方々を応援してまいります。令和4年度も引き続き、当会の業務・事業にご理解をいただき、さらなるご支援とご協力をお願い申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

学校における食育の推進について

新潟県教育委員会教育長 佐野 哲郎

新潟県学校給食会をはじめ学校給食関係者の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の流行により社会が大きく変動しているなか、また昨今の物価高騰が学校給食に大きな影響を及ぼしている状況のなか、安全・安心かつ安定的な学校給食用物資の提供、学校給食の普及・充実並びに食育の推進に御尽力いただき感謝申し上げます。

近年、食の多様化に伴い、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人の割合の減少や朝食を欠食する人の割合の増加など、食生活の乱れが生じています。

また、それに伴い、やせや肥満などの健康課題が見られ、生活習慣病と食生活の関係も指摘されています。成長期にある子どもにとって、健全な食生活は健康な心身を育むために欠かせないものであるとともに、将来の食習慣の形成に極めて重要です。

このため、子どもへの食育は、生涯にわたって健やかに生きるための基礎を培うものであり、家庭を中心としつつ、学校における食育推進体制を確立し、学校・家庭・地域が連携して、子どもの食環境の改善に努めることが必要です。

県教育委員会では、「新潟県教育振興基本計画」の基本方針の一つである「一人一人の個性や能力を伸ばす教育の推進」に向け、健康でたくましい心身を育む教育の充実のために、栄養教諭の研修による資質向上、学校全体で食育を推進する意識の醸成など、食育の推進を図る様々な施策を進めているところです。

また県では、令和3年3月に「第3次新潟県食育推進計画」を策定し、重点課題として「生涯にわたる

健康づくり」、「各世代や場面に対応した食育の推進」、「新潟の食の理解と実践」を掲げたところです。そしてそれらの課題

のために、学校給食を「生きた教材」として活用し、給食の時間はもとより、各教科や総合的な学習の時間など学校の教育活動全体を通して行う食育などに取り組むこととしています。併せて、地域の農林水産物を活用した給食献立により、児童生徒が多様な食に触れる機会を設定し、生産等に関わる人々に対し感謝の心や伝統的な食文化の理解につなげることができるよう、学校給食の一層の充実を図ります。

本県には、恵まれた自然環境や地域に根ざした食文化があり、学校給食に地場産物を使用したり、郷土料理を提供したりすることで、児童生徒が、地域の自然や文化等に関する理解を深めることができます。

貴会におかれましては、地場産品を使用した食品開発、米粉製品の利用に係る経費補助及び助成事業を行い、食育推進においても重要な役割も担っていただいているいます。

貴会スローガン「豊かな心 健康ながらだ 育てよう 学校給食で！」のもと、引き続き学校給食用物資の適正な供給を通して、学校における食育の支援に係る事業の実施をお願いします。

終わりに、今後も皆様と一層の連携を図り、食育の推進及び安全・安心な学校給食の提供に努めたいと考えております。皆様の更なる御支援・御協力をお願いいたします。



県内
市町村の
取組

新潟県の学校給食 No.27

三条市の学校給食

1 【学校給食の提供方法】

- 共同調理場方式:4か所
(小学校17校、中学校6校)
- 自校方式:小学校2校(小中一体校)、
義務教育学校1校
合計で1日約7,400食の給食を提供
しています。



2 【三条市の給食は地産地消が満載☆】

こだわり①

お米はすべて三条産の
特別栽培米又は
有機栽培米コシヒカリ



安心安全で
地元農家さんの
愛情がたっぷり!



こだわり②

パンや麺にも
三条産の小麦粉・米粉を使用

地元で小麦が作られていることを
子どもたちに伝える意味も込めて。



農家さんから直接仕入れた地場の旬の野菜を使用

JJAや八百屋さんと連携し、
産地直送を実現しています。



3 【給食を通じた食育】

毎月19日の『食育の日献立』は、主菜は旬の魚介類、副菜には地場野菜をできるだけ使用しています。また、郷土料理も積極的に取り入れています。給食だよりでは、主菜の魚の情報や、郷土料理についてお知らせし、おいしく学びある献立を提供しています。

令和4年5月給食だよりより

- 旬のおさかな通信 今月は“かつお”
- 大きなものは全長1m、重さ20kgにもなり、世界中の温かい海に生息しています。日本では古くから“かつお節”として食文化を支え、江戸時代後期から、刺身としても食べられているそうです。
- 栄養面では、良質なたんぱく質、鉄分などが豊富です。

郷土料理紹介 13日(金)
「せんまい煮」

行事の時などに、ちてなし料理として作られています。干したせんまいを煮して使います。給食では、せんまいの他にもだけのうわいんじんなどの食材も入れて作ります。



「食育の日献立」



おすすめ

取扱商品のご案内



素材にこだわり、美味しさと使いやすさを両立しました

リケンの冷凍海藻シリーズ

冷凍海藻 三陸産
丸採りわかめ カットS

500g

加熱に強い
しっかり食感！

丸ごとカット
わかめの新しい
美味しさ！

わかめを湯通してそのまま急速凍結！
旬の美味しさをそのままお届け！



メニュー例：豚肉入り若竹煮

冷凍海藻 そのまま手軽に
細ぎりくきわかめ

三陸産

500g



メニュー例：茎わかめのきんぴら

冷凍海藻 そのまま手軽に
美ら海もずく

沖縄県産

500g

1Kg



メニュー例：もずくのかきたまスープ



- 塩抜きした細切りくきわかめをIQF凍結(バラ凍結)
- サラダや和え物はもちろん炒め物やスープ等にも！



加熱しても
シャキシャキ！



- 塩抜き・カット済。解凍するだけで使用可能です。
- 味付けしていないのでサラダはもちろんスープ等にも！



天ぷらも
おすすめ！

価格は、当会担当者までお問い合わせください。

公益財団法人 新潟県学校給食会 令和4年度 事業計画概要

1 事業方針

新潟県教育委員会をはじめ学校給食関係諸機関との緊密な連携を図りながら、次代を担う児童生徒の健全な発達に寄与するため、新潟県内すべての学校、幼稚園及び保育所等の社会福祉施設を対象に給食用物資の「安全・安心」、「安定供給」及び「普及充実・食育の推進」を目的とした事業を実施する。

2 事業期間

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

3 主たる事業概要

(1) 学校給食の安全・安心を推進する事業

- ①検査等の実施
- ②基本物資(米飯・パン・麺)の委託加工工場への立入調査
- ③衛生管理講習会の実施
- ④衛生管理対策への対応
- ⑤供給物資の安全性の確保

(2) 学校給食用物資の安定供給に関する事業

- ①基本物資(米・パン・麺等)の安定供給
- ②一般物資の安定供給

(3) 学校給食の普及充実・食育を推進する事業

- ①情報の提供
 - ア ホームページ
 - イ にいがたパックン
 - ウ にいがた学校給食だより
 - エ KENKYUインフォメーション
 - オ おすすめ商品
- ②講習会・コンクール等の開催
 - ア 新潟県学校給食会 料理講習会
 - イ 学校給食施設親子見学会
 - ウ 新潟県学校給食調理コンクール
 - エ 新潟県学校給食フェア2022・食育講演会
 - オ 米粉パン品質審査会・米粉めん品質評価会議
 - 米粉パンの技術講習会
- ③研修会等助成事業
- ④給食・食育衛生管理関連機材等の貸与事業
- ⑤県内農林水産物を活用した食品開発
 - ア 学校給食用食品の開発や地産地消食材の供給。
 - イ 地産地消食品及び食育関連食品を開発する。
- ⑥米粉製品の利用に係る経費補助及び助成事業

(4) 学校給食設置者を支援する事業

- ①安全・安心な発注業務を支援する。
- ②新潟県学校給食フェア2022を開催。
- ③牛乳代金の回収・支払い業務を代行。

4 役員、評議員及び事務局職員

- (1) 役員 理事 9名(理事長、常務理事を含む)
監事 2名
会計監査人 1名
- (2) 評議員 14名
- (3) 事務局職員 31名(本部22名、上越支所5名、中越支所4名)

●令和4年度 収支予算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:千円)

科 目	当年度 (4年度)	前年度 (3年度)	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	1	1	0
② 特定資産運用益	189	289	△ 100
③ 事業収益	2,302,439	2,348,291	△ 45,852
④ 受取補助金等	7,510	7,600	△ 90
⑤ 雑収益	40	40	0
経常収益計	2,310,179	2,356,221	△ 46,042
(2) 経常費用			
① 事業費	2,290,443	2,336,916	△ 46,473
物資販売事業費	2,050,860	2,102,798	△ 51,938
米穀品質保持事業費	1,900	2,100	△ 200
普及充実事業費	5,449	5,049	400
委託加工工場支援事業費	1,060	1,060	0
人件費	178,678	174,269	4,409
減価償却費	13,860	14,285	△ 425
旅費交通費	350	280	70
建設準備費	0	140	△ 140
会議費	308	88	220
事務費	34,305	33,173	1,132
租税公課	3,075	3,075	0
保険料	599	599	0
② 管理費	13,735	13,304	431
人件費	4,382	4,292	90
減価償却費	4,140	4,267	△ 127
旅費交通費	150	120	30
建設準備費	0	60	△ 60
会議費	42	12	30
諸謝金	3,750	3,300	450
事務費	1,245	1,227	18
租税公課	25	25	0
保険料	1	1	0
経常費用計	2,304,179	2,350,221	△ 46,042

公益財団法人 新潟県学校給食会 令和4年度 役員体制のお知らせ

理事 [9名]	評議員 [14名]
島村 文男（湯沢町教育委員会教育長）	早川 義裕（上越市教育委員会教育長）
中澤 肇（胎内市教育委員会教育長）	近藤 喜祐（柏崎市教育委員会教育長）
佐藤 人志（上越市立大手町小学校長）	遠藤 友春（村上市教育委員会教育長）
大橋 伸夫（新潟市立白新中学校長）	本多 満喜子（新潟県消費者協会会長）
井上 雅夫（五泉市教育委員会学校教育課長）	太田 優子（新潟県立大学准教授）
折居 千恵子（公益社団法人新潟県栄養士会会长）	大矢 晃子（新潟市立西幼稚園長）
長谷川 英一（新発田市農林水産課長）	西本 直史（長岡市立脇野町小学校長）
理事長 藤井 人志	鷲津 秀幸（新潟市立巻西中学校長）
常務理事 丹 淳司	薄 一俊（新潟県立長岡明徳高等学校長）
監事 [2名]	宮田 青美（元教育庁保健体育課主任）
大矢 益子（元全国学校栄養士協議会新潟県支部長）	久保 尚子（新潟県学校栄養士協議会会长）
小林 隆裕（新発田市立藤塚小学校長）	櫻井 孝明（南魚沼市塩沢学校給食センター長）
会計監査人 [1名]	渡辺 慎一（新潟県農林水産部食品・流通課長）
山岸 賢太朗（山岸公認会計士事務所公認会計士）	矢島 則幸（出雲崎町産業観光課長）

公益財団法人 新潟県学校給食会 令和4年度 事業計画(夏季事業)について

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中止及び延期とさせていただきます。

行事名	会場	対象者	備考
佐渡市調理講習会	あいぽーと佐渡	●栄養教諭 ●学校栄養職員 ●調理従事者	開催を中止
学校給食料理講習会	食育花育センター	●栄養教諭 ●学校栄養職員	開催を中止
学校給食親子見学会	当会及び新潟県内の給食関連メーカー	●新潟県内の小学4~6年生とその保護者	開催を中止
学校給食調理コンクール	食育花育センター	●栄養教諭 ●学校栄養職員 ●調理従事者	開催を中止
学校給食フェア2022及び食育講演会	新潟市産業振興センター	●県内学校給食関係者	開催を中止
学校給食用米粉パン技術講習会及び委託加工工場衛生管理講習会	当会 他	●委託加工工場代表者 ●製造技術者 ●食品衛生責任者等	開催検討中

公益財団法人 新潟県学校給食会 令和4年度 理事会・定時評議員会

令和4年度公益財団法人新潟県学校給食会 理事会を6月8日(水)、定時評議員会を6月21日(火)に書面決議にて開催し「令和3年度事業報告及び決算」等についての審議はすべての議案について承認可決されました。



食の豆知識

A Frequently Asked Question on How to Eat Healthy



Q

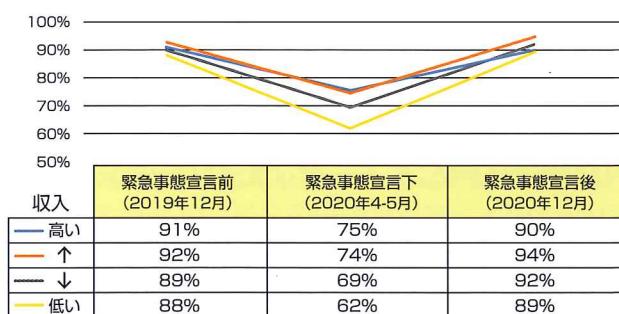
新型コロナウイルス感染症の流行は、全国の子どもたちの食事に影響を与えていたのでしょうか。
また、その影響は、家庭の経済的背景により異なるのでしょうか。

A

2020年12月に、全国の小学5年生・中学2年生の子どもがいる世帯から無作為に選ばれた3,000世帯の家庭を対象とし、新型コロナウイルス感染症の流行が全国の子どもたちの食事に与える影響について、家庭の経済的背景を含めた調査がなされました。回答を得られた1,551世帯(回収率52%)に対して、2020年4-5月の緊急事態宣言中およびその前後における子どもの食事状況が検討されました。

その結果、「バランスの取れた食事」(「肉、魚、卵」と「野菜」を両方1日に2回以上含む)を摂取している子どもの割合は、世帯収入に関わらず、学校給食が中止された緊急事態宣言中に低下していました。特に、世帯収入が低い家庭(4人世帯での中央値:約350万円)では、緊急事態宣言中に「バランスの取れた食事」を摂取している割合が大きく低下していました。

緊急事態宣言下及び前後にバランスの取れた食事を摂れている小5・中2の割合(世帯所得四分位別)



*地域や世帯人数で1人が使える金額が異なると考えられることから、世帯所得を各市町村および世帯人数で調節後、4分位にして検討した。

(4人世帯での中央値は以下の通り:「高い」=900万円、「比較的高い」=650万円、「比較的低い」=450万円、「低い」=350万円)

また、世帯収入が低い家庭の保護者は、特に、感染拡大前よりも緊急事態宣言後のほうが、食事を作る時間の余裕が減った、食事を作る心の余裕が減った、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなったと回答した割合が多くみられました。

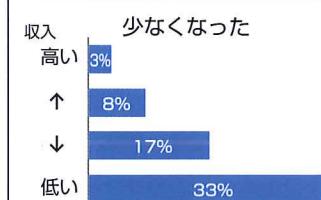
食事をつくる時間の余裕が…

収入	増えた	減った
高い	24%	12%
↑	17%	11%
↓	16%	16%
低い	16%	16%

食事をつくる心の余裕が…

収入	増えた	減った
高い	17%	13%
↑	8%	21%
↓	10%	20%
低い	12%	17%

食材を選んで買う経済的余裕が…



現在も続くコロナ流行下において、学校給食の提供を含めた、子どもたちの望ましい食事摂取につながる取組が期待されます。

Horikawa C, Murayama N, Kojima Y, Tanaka H, Morisaki N. Changes in Selected Food Groups Consumption and Quality of Meals in Japanese School Children during the COVID-19 Pandemic. Nutrients. 2021;13(8):2743. doi: 10.3390/nu13082743.

[新潟県立大学 人間生活学部 健康栄養学科]